

特別活動研修部 第2回研修会アンケート

1 中村亮太先生の実践発表について(感想や聞きたいことなど)

思考ツールを使っているということが印象的だった。「見える化」するというのを自分の実践にも生かしていきたい。

子どもの自己評価で、「わからない」から「できていない」が増えたことに対して、適切に自己評価ができるようになったと考察されていることが興味深いと思った。

キャリア教育と関連付け、目標を立てることでなりたい自分が明確になることを改めて実感した。思考ツールを様々な場面で使っていきたい。

常に課題について意識させ、現状の段階を考えさせ続けることが改めて大切だと感じた。日々の生活が特別活動につながるということを教師側がおさえることも大切だと感じた。

指導要領や学校教育目標をふまえた上で目標を設定することの大切さを改めて実感した。ICTを使って考えを可視化したり、それを印刷掲示して振り返りにも活用したりすることが参考になった。

先を見通させ、話し合いを進めていくプロセスはとても重要だと感じた。話し合いの可視化という点がすごく参考になった。

「何のために?」「何を目標に?」を問うようにしている。目標をはっきりさせ、振り返ることは大切だと思っている。実践の後で思考力がどれほど伸びたのか、データを知りたいと思った。

特別活動においても「付けたい力」を明確に持つことで、やるべきことが鮮明になってくることが分かった。

思考ツールを話し合いの事前、中、事後で活用する実践を初めて学んだ。まずは、教師が意図をもって使ってみる必要感を感じた。

子供たちに自主的、自発的にクラスの課題意識をもたせていたのがすごいと思った。自分なりにアレンジして、学級の子供たちに提示したい。

本校でも今年度の重点に思考ツールの活用をあげているので、特別活動の内容でも使えるツールの見方や使い方がとても興味深かった。

特活で育む資質能力を子供たちにも理解させるために、わかりやすい言葉に変えて提示したり、思考ツールを活用して、子供たちの課題をより明確にしたりと工夫が多くあった実践であった。また、浜松市が推進しているキャリア教育とも連動して、ゴール目標を設定することによって具体的にどんな姿になりたいかが分かりやすくなるなどと思った。

2学期、5年生の国語で「よりよい学校生活のために」と特活の話合いを融合して授業をしようと考えている。普段の生活や行事からヒントを得て思考ツールを使っているのがすごいと思った。

学級の課題を、行事と結び付けて解決に向けた話合いをすることで、子供たちが自分事として課題に向かい合うようになっていく姿が素敵だと感じた。また、思考ツールを用いることで「今、何を話し合うのか」も明確にしながら話合いに臨めたのだと思った。

アンケートを取ったり、文字を書いたり、チャートを使ったり、見える化することで、子供に落ち、現実的な目標になっていくと感じた。黒板のみの話合いではなく、形に残り、比較できるように工夫したいと思った。

特別活動の特別とは、何だろうとまず疑問点を持つ感覚を見習わないといけないと気付かされた。活動や評価の部分で一つ一つの言葉をかみくだいて理解し、子供に落としていき、子供やクラスの実態に合わせた特別活動を行っていきたい。

児童に対していきなり「社会参画」という言葉を出しても、意味・意図が伝わらない中、まずはより分かりやすく、伝わりやすい言葉に置き換えるというのはとても効果的であるとともに、指導する側にとっても学びを深めるうえで重要だと発表を聞いて改めて感じた。中学校ではなかなか学級会が学活などで開けない実情もあるが、また参考とさせていただきたい。

すてきな発表ありがとうございました。難しい言葉を子供たちに分かりやすい言葉に落としたり、ICT を活用したりと様々な工夫を知ることができた。野外活動を行った後には、普段の子供たちの様子にも変化や成長があったのかなと思った。

□思考ツールを活用して話合い活動をしていきたいと思った。本校でも ICT を活用して学級や個人の課題についてのアンケートや振り返りを行っているが、フィードバックしたり共有したり自己調整の時間をとったりということができていない。どんなふうにしていったらよいか、アイデアが知りたい。

◆フォームのアンケートは便利だが、子供の実態によっては、自由記述だと多角的な意見が出にくい。こちらからいくつか視点を示した方が、深まる場合もあった。

◆思考ツールは様々なものがあるが、なぜ今回この3つを使用したか、その意図まで説明するとより説得力が増した。

2 その他(合意形成の研修やグループ協議についてなど)

話し合いをするときには、目的(提案理由)をはっきりとさせてのぞんでいきたいと改めて感じた。様々な思考ツールを自分も活用してみようと思った。

合意形成していくために、視点をしばったり、提案理由を明確にしたりすることが大切だと感じた。OJTの考え方でグループを組んだところは本当にすばらしいと思う。

合意形成のプロセスを食べ物のカードで示してくれたのはとてもわかりやすかった。子供が自由に発言できることが望ましいので、否定せずに合意形成ができるとうれしかった。

話し合いでの困りごとが共有できて、どの先生も悩まれていることがわかった。特に、話し合う時間の確保が難しいと感じた。

学級会を客観的に見るという経験は貴重だと感じた。また、それを他校の先生方と共有したことで、自分にはない視点に気付くことができた。

真剣に話し合うからこそ、ぶつかり合いが起きると感じた。そうならないための、めあての設定、ルール設定が大事だと改めて学ぶことができた。

中学校では、話し合いをほとんど行っていない。今回の思考ツールや様々な手立てを試すことで、中学生がどんな反応をするか楽しみ。

合意形成のプロセスの研修がとてもよかった。研修で学級について再確認できた。活動が多くて分かりやすい。意見をまとめるメニューを使っているが、子供たちに分かりやすく好評。情報交換の場にもなり、アイデアもいただけた。

合意形成の仕方がよく分かった。子供にどう伝えようか迷っていたので、今回いただいた資料を子供にも共有したい。先生方といろいろな話ができ、悩みやアドバイスを聞くことができたので、学びがたくさんあった。

話し合いでの困り感が共有できてよかったし、今後の話し合いでのポイントを押さえられたので、実践していきたい。「ハーフアンドハーフ」など目に見える形にすると分かりやすいと思ったし、「隣の人と相談して下さい」よりもきちんとグループを作って話す方が、発言できるし学べると感じた。

グループ協議の中で合意形成を円滑に進めるためには、ゴールを定めることがまず大切だよねという話が挙がった。ゴールはぶれてはいけない軸として、視点や手立てや思考ツールを有効的に使って進めていきたいなと思った。

模擬学級会がよかった。イメージしやすかった。

小学校と中学校での取り組みの違いを感じた。合意形成の研修は小学校向けになりすぎていて、あまりイメージがしづらかったです。きっと小学校で様々な取り組みをしてきていて、中学生の姿があるんだろうと思った。

場面によって使用できる思考ツールも変わってくることから、教師側が、あらかじめどんな話合いにしたいのか、児童生徒のどのような成長を期待するのか、しっかりと考え、教材研究にも力を入れていく必要があるなど感じた。今回の研修とは関係ありませんが・・・

□本校の夏の研修で特別活動(学級活動)の年間指導計画を各学年作った。枠を自分が用意し、各学年の先生にお願いして作っていただいたが、他の学校では年計がどのようになっているのかが知りたい。

- ◆最も大切なのは、話し合う必要感を持たせることだと再認識した。先生方にも一つ課題を提示し、実際に目標に向けて合意形成してもらおうとよかったのではないか。話合いにも必要感が生まれる。
- ◆合意形成と言うものの、クラスの実態・学年によっては難しいこともあるため、スモールステップで少しずつできるようになればいいかなと思った。模擬学級会では、何年生なのか何月に行うものなのか具体的に設定していただけるとありがたかった。
- ◆協議の視点を明確にしてほしかった。
- ◆模擬学級会の協議のときに、「あなたが教師だったらどのような手立てを打ちますか」という聞き方だと話がしやすいと思った。
- ◆教師間での意見交流の時間が長く感じた。同じメンバーで、同じような内容の話となってしまう。メンバーを変えるか、話題を切り替えるとよかった。